



矢巾町音楽祭



煙山小吹奏楽部



オープニングセレモニーで「音楽のまち やはば」
宣言文を朗読する小田島玄基君（煙山小6年）



矢巾中吹奏楽部



矢巾北中特設合唱部

各団体の演奏が終わるたびに拍手が沸き起こった他、「アンコール」の声も上がるなど、町内における初めての音楽の祭典は、出演者と来場者の双方にとって、心から音楽を楽しめる場となりました。

町内小中学校の吹奏楽部や合唱部などが出演する午前の部、鵜鳥神楽保存会と不来方高校音楽部が出演する午後の部を合わせて約630人が来場しました。

第1回矢巾町音楽祭は10月18日、田園ホールで行われました。町内小中学校の吹奏楽部などに加え、今年で交流開始から20周年となる普代村の鵜鳥神楽保存会を含めた7団体が出演。コロナ禍で音楽イベントなどが中止となる中、「音楽の力で町を元気に」というコンセプトで実施した音楽祭で、各団体が特色ある演出を展開し、ハーモニーを響かせて観客を魅了しました。



出演者・観客
ともに楽しむ

第1回



不動小4年生



不来方高音楽部



鵜鳥神楽 (普代村)



矢巾北中吹奏楽部

最後のステージ

初開催となった町音楽祭での演奏は、来年に卒業を控える小学6年生や中学3年生などにとって、最後の演奏の場となりました。演奏後、涙をみせながらステージを後にする児童生徒もおり、音楽祭での発表に掛けた思いが、観客へ伝わりました。

以下、出演団体のうち、2団体の部長のコメントを紹介します。

▼**煙山小吹奏楽部** 生田侑里ゆうり部長（6年）緊張したが、今までで一番、良い演奏ができた。6年生全員で後輩を引っ張ることができたから、良い部に成長させられたと思う。

▼**矢巾北中吹奏楽部** 前澤仁之部長（3年）例年より活動の場が少ない分、少ない時間とチャンスを大事に取り組んできた。みんな笑顔で、胸を張って臨むことができたと思う。演奏を終えて、達成感を感じられるステージにできた。